



平成26年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年8月9日

上場会社名 新潟交通株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9017 URL <http://www.niigata-kotsu.co.jp>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 佐藤 丈二
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員総務部長（氏名） 今城 哲 TEL (025)246-6335
 四半期報告書提出予定日 平成25年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 平成26年3月期第1四半期の連結業績（平成25年4月1日～平成25年6月30日）

(1) 連結経営成績〔累計〕

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期 第1四半期	5,011	0.3	333	35.4	104	—	90	—
25年3月期 第1四半期	4,995	1.7	246	33.8	6	—	△554	—

（注）包括利益 26年3月期第1四半期 92百万円（－％） 25年3月期第1四半期 △556百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期 第1四半期	2.35	—
25年3月期 第1四半期	△14.41	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期 第1四半期	59,041	10,829	18.3	281.69
25年3月期	59,136	10,736	18.2	279.26

（参考）自己資本 26年3月期 第1四半期 10,829百万円 25年3月期 10,736百万円

2. 配当の状況

(基準日)	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
25年 3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
26年 3月期	—	—	—	—	—
26年 3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

（注）直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	20,800	0.9	1,650	△1.6	750	3.4	500	280.5	13.01

（注）直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

② 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期1Q	38,640,000株	25年3月期	38,640,000株
② 期末自己株式数	195,925株	25年3月期	194,373株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	38,444,651株	25年3月期1Q	38,447,413株

(※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビューの対象外です。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

(※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財務状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間.....	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間.....	7
4. 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	8
(セグメント情報等).....	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、輸出環境の改善や「アベノミクス」への期待感、更には日銀による積極的な金融緩和等を背景として、景気は、ゆるやかに回復している状況から着実に持ち直している状況へと改善しました。景気の先行きについても、輸出の持ち直しや各種政策の効果が発現するなかで、景気回復へ向かうことが期待されますが、一方で、依然海外景気の下振れが我が国の景気を押し下げるリスクとして存在する状況となっております。

こうした事業環境の中、当社グループでは昨年度より“成長企業への転換”を経営方針とする「第4次中期経営計画」をスタート致しました。当年度は同中期経営計画の最終年度への橋渡しの年として、前年度を上回る成果をグループ全体で残すべく積極的に事業を展開し、不動産事業と旅館事業において、前年同期を上回る売上高を計上することが出来ました。また全事業の合計においても前年同期比増収となりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の総売上高は5,011百万円（前年同期比0.3%増）、営業利益は333百万円（同35.4%増）、経常利益は104百万円（前年は経常利益6百万円）、四半期純利益は90百万円（同四半期純損失554百万円）となりました。

セグメントの業績の概況は、次の通りであります。

○運輸事業

乗合バス部門では、お客さまに信頼されるバスを目指し、定時性の向上に努めました。定時性の向上に向けては、現金やバスカードに比べてスムーズな乗降が可能となるICカード「りゅーと」の普及を促進すべく、新潟駅南口・古町NEXT21（平成25年4月1日）と、新潟日報メディアシップ（同4月12日）の3箇所「りゅーと」のチャージ機を増設致しました。また行政連携のもと、「りゅーと」利用限定で「新潟駅ー古町間運賃100円（同4月27日～6月30日の土日祝日）」の運行を行い、利便性の向上と合わせて運賃収入の増加に努めました。しかしながら、バスカード及び回数券（普通バスカード・買い物バスカード・普通回数券・買い物回数券）の利用終了を告知したことに伴い、代売所による在庫調整等が発生したため、運賃収入は前年同期比減収となりました。

高速バス部門では、京都大阪線にて往復乗車券と大阪市交通局の1日乗車券がセットになった「大阪いっできっぷ」（平成25年4月1日～平成26年3月31日）を販売開始したほか、仙台線にて携帯電話やスマートフォンの充電が可能なコンセントを備えたバスを導入（同4月27日）し、顧客満足度の向上と運賃収入の増加に努めた結果、県外線においては前年同期を上回る運賃収入を得ることができました。一方、県内線においては、一部路線にて実施した減便の影響等により、前年同期比減収となりました。

貸切バス部門では、お客さまの「安心・安全」に対するニーズの高まりに伴い旅行代理店からの受注件数が増加基調にあったことから、観光バスを7台増車（平成25年4月導入）し、収入の増加に努めました。こうした施策と観光バス受注センターへの情報一元化による効率的なバスの運用により、貸切バス収入は前年同期比増収となりました。この結果、運輸事業の売上高は2,414百万円（前年同期比0.9%減）となりました。

○不動産事業

不動産事業では、万代シティ BP2へ、新潟のマンガ・アニメ文化を市内外へ発信し、新潟市の観光交流の推進及び地域の活性化を図る「新潟市マンガ・アニメ情報館」（平成25年5月2日オープン）を誘致し、万代シティの魅力向上と賃料収入の増加に努めました。また本年11月に40周年を迎える万代シティでは、万代シティ商工連合会商店街振興組合と連携して、40周年記念イベントを多数企画し、同企画の第1段として「万代アースフェスタ2013」（同5月3日～5日）を実施するなど、万代シティへの来街客増加に努めました。こうした活動の成果により、賃貸収入と駐車場収入が前年に比べて増加した結果、不動産事業の売上高は754百万円（前年同期比4.6%増）となりました。

○商品販売事業

主力の観光土産品販売部門では、取引先の新規開拓に加え既存取引先へのシェアアップに注力した結果、土産品の販売においては前年を上回る売上を確保することが出来ました。また、「マリニピア日本海」の全館リニューアルに伴う休館により、同施設内における直営店の売上が剥落したことを主因として、前年同期比減収となりました。

コンビニエンス部門においては、積極的な商品展開と種々のキャンペーン効果により、来店客数及び購入単価が増加し、前年同期比増収となりました。

この結果、商品販売事業の売上高は581百万円（同1.7%減）となりました。

○旅館事業

佐渡市内の「国際佐渡観光ホテル八幡館」では、宿泊客層の改善に取り組み、「低価格の団体・ツアー」から「高価格の個人」へのウェイトシフトを行った結果、宿泊客数では前年を下回ったものの、宿泊収入は前年を上回ることが出来ました。しかしながら婚礼の受注件数が前年度に比べて減少したことにより、売上高は僅かに前年同期を下回りました。

新潟市内の「万代シルバーホテル」では、お客さまの多様なご要望にお応えするため、6月より館内レストラン4店（和食・洋食・中華・イタリアン）にて、店同士で一部料理の出前を行うサービスを始め、顧客満足度の向上に努めました。また「WBC（WORLD BEER CLASSIC）」（平成25年4月25日・26日）や「高級フレンチイベント 巨匠 河野透 賞味会」（同6月5日）などの館内イベントを実施し、売上高の増加に努めました。こうした営業施策と、昨年10月にオープンした館外直営店「フロresta」・「ベリーベリースープ」の売上寄与により、売上高は前年同期比増収となりました。

この結果、旅館事業の売上高は513百万円（同4.1%増）となりました。

○その他事業

旅行業では、25周年を迎えた「くれよん」にて、お客さまへの感謝の気持ちを込めた「ホテル八乙女」全館貸切コースや、新たな旅シリーズ「くれよん秘湯の宿シリーズ」など、魅力ある目的参加型旅行を多数企画し集客力の向上に努めました。また小・中学校における修学旅行の実施、スクールバスの受注に注力した結果、前年同期比増収となりました。

航空代理業、広告代理業においても積極的に営業活動を行った結果、売上高は前年同期比増収となりました。一方、清掃・設備・環境業では厳しい事業環境の中で推移した結果、前年同期比減収となりました。

この結果、その他事業全体の売上高は746百万円（同0.7%減）となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、売掛金の増加や未収入金の減少、有形固定資産の増加などにより、前期末に比べ94百万円減少し、59,041百万円となりました。

負債は、借入金の返済による減少などにより、前期末に比べ187百万円減少し、48,212百万円となりました。

また、純資産は、四半期純利益90百万円計上による利益剰余金の増加などにより、前期末に比べ92百万円増加し、10,829百万円となり、自己資本比率は18.3%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、概ね計画通りに推移しております。従って、本年5月15日公表の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前年度の検討において使用した将来の業績予想や、タックスプランニングを使用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,571,279	2,427,255
受取手形及び売掛金	1,030,366	1,304,749
商品及び製品	160,910	208,055
原材料及び貯蔵品	121,900	104,468
その他	846,711	494,244
貸倒引当金	△12,343	△11,741
流動資産合計	4,718,825	4,527,033
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	12,762,403	12,565,414
土地	37,911,657	37,911,657
その他(純額)	2,352,930	2,652,643
有形固定資産合計	53,026,990	53,129,715
無形固定資産	289,628	296,199
投資その他の資産	1,100,784	1,088,521
固定資産合計	54,417,404	54,514,435
資産合計	59,136,229	59,041,468
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	851,900	1,018,320
短期借入金	19,220,706	17,762,285
未払法人税等	61,034	31,572
賞与引当金	130,506	89,913
その他	2,857,510	3,078,138
流動負債合計	23,121,657	21,980,230
固定負債		
社債	260,000	260,000
長期借入金	16,598,882	17,283,191
再評価に係る繰延税金負債	4,964,499	4,964,499
退職給付引当金	334,283	332,710
役員退職慰労引当金	235,374	197,852
その他	2,885,044	3,193,813
固定負債合計	25,278,083	26,232,067
負債合計	48,399,740	48,212,297

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,220,800	4,220,800
資本剰余金	2,946,550	2,946,550
利益剰余金	△4,290,963	△4,200,685
自己株式	△32,957	△33,253
株主資本合計	2,843,429	2,933,412
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△14,617	△5,990
繰延ヘッジ損益	—	△5,927
土地再評価差額金	7,907,676	7,907,676
その他の包括利益累計額合計	7,893,058	7,895,758
純資産合計	10,736,488	10,829,170
負債純資産合計	59,136,229	59,041,468

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	4,995,600	5,011,122
売上原価	3,666,421	3,576,154
売上総利益	1,329,178	1,434,968
販売費及び一般管理費	1,082,242	1,101,434
営業利益	246,936	333,533
営業外収益		
受取利息	389	332
受取配当金	3,509	4,524
持分法による投資利益	2,780	1,303
雇用調整助成金	8,182	—
その他	5,747	6,063
営業外収益合計	20,609	12,223
営業外費用		
支払利息	258,485	234,431
その他	2,083	6,672
営業外費用合計	260,568	241,103
経常利益	6,977	104,652
特別利益		
固定資産売却益	901	124
投資有価証券売却益	—	2,739
補助金収入	5,236	14,337
株式割当益	2,579	—
保険差益	—	2,026
その他	47	—
特別利益合計	8,764	19,226
特別損失		
固定資産売却損	512,225	163
固定資産除却損	3,505	4,585
特別損失合計	515,730	4,749
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△499,988	119,130
法人税、住民税及び事業税	14,753	23,535
法人税等調整額	39,275	5,316
法人税等合計	54,028	28,851
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△554,016	90,278
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△554,016	90,278

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	△554,016	90,278
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,088	8,627
繰延ヘッジ損益	—	△5,927
その他の包括利益合計	△2,088	2,699
四半期包括利益	△556,105	92,978
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△556,105	92,978
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸事業	不動産事業	商品 販売事業	旅館事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	2,436	721	591	493	4,243	751	4,995	—	4,995
セグメント間の内部 売上高又は振替高	40	121	12	6	181	167	348	△348	—
計	2,477	843	604	500	4,425	919	5,344	△348	4,995
セグメント利益又は 損失(△)	△187	323	28	3	168	78	246	0	246

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅行業、航空代理業、清掃・設備・環境業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	運輸事業	不動産事業	商品 販売事業	旅館事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	2,414	754	581	513	4,264	746	5,011	—	5,011
セグメント間の内部 売上高又は振替高	43	121	13	7	186	170	356	△356	—
計	2,458	876	595	520	4,450	916	5,367	△356	5,011
セグメント利益又は 損失(△)	△169	387	27	10	256	76	333	0	333

- (注) 1. 「その他の事業」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、旅行業、航空代理業、清掃・設備・環境業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。